



にじのはし幼稚園 園だより



令和5年2月号
港区立にじのはし幼稚園
園長 石川典子

もうすぐ節分です。節分とは「季節の分かれ目」という意味です。二十四節気の「立春」「立夏」「立秋」「立冬」の前日のことで、年に4回ありましたが、今ではほとんど立春の前日だけをさすようになりました。旧暦では「立春」で冬が終わり、春になって1年が始まると考えられていたので、立春の前日の「節分」は大晦日のように、特に大切にされてきました。厄除けとなるイワシの頭やヒイラギの飾りは、「焼臭（やいかがし）」や「柀刺し（ひいらぎさし）」と呼ばれます。幼児、保護者、地域の方、教職員が健康に過ごせるよう、園内にも飾っています。

幼稚園では、幼児が伝統行事に触れ、長い歴史の中で育んできた文化や伝統の豊かさを感じてほしいと考えます。幼児が行事に関わり、由来を聞き、いわれやそこに込められている人々の願いなどに、気付いてほしいと願います。

本園は、幼児の主体性を重視し、豊かな感性や創造性、思考力を育てています。

教材や行事を工夫し、心動く体験へとつなげ、豊かな学びを保障します。

(幼稚園経営計画 4 経営の重点の今年度の主な取り組み より)

節分は、幼児にとって普段の生活では馴染みの少ない“鬼”に触れ、豆まきをする楽しい季節行事です。幼児は節分に期待感をもち、鬼の面や升を作っています。担任の先生は、各学年の発達や製作の技術に合わせて、経験させたい内容を明確にし、学年の幼児が意欲的に作ることができる教材を考えます。そのため学年によって、作り方や材料が異なります。幼児は、作る過程で、鬼の目・鼻・眉毛・口などの部位を意識し、置き方によって鬼の表情が変わることを楽しみ、象徴の角を付け、鬼らしく作り上げた満足感を味わいます。

年中・年長組は豆まきの升も作ります。2学年とも平面（正方形の用紙）に切り込みを入れ、立体にします。年中組は、先生が正方形や切り込みの線を描いた用紙を準備し、幼児が線に合わせて切り、組み立てます。年長組は自分で正方形の用紙を4×4マスになるように折り線をつけ、切り込みの位置や長さは、見本を見て思考しながら作ります。発達により作り方は違いますが、両学年とも、正方形や線など、図形に触れる体験をします。

小学校学習指導要領の2年生<算数>の教科の『図形』では、「三角形・四角形・正方形・長方形」の図形や「正方形や長方形の面で構成される箱の形をしたものについて理解し、それらを構成したり分解したりすること」「図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えるとともに、身の回りのものの形を図形として捉えること」などの内容があります。幼稚園では、幼児が興味や関心をもって主体的に取り組む活動の中で、非認知能力は勿論、認知能力も育み、算数的な感覚を養うなど、**小学校教育との接続を意識した教育**を行っています。

さて、豆まきに向けて、幼児は、自分の中のどんな鬼を退治したいと考えるでしょうか。幼児なりに自分のことを客観視しながら省みることで、「直したいところ」や「なりたい自分」を意識することができます。自分で自分を理解し、目標をもって行動や意識を変えることは、「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」の中の、**自立心の育ち**とも言えます。

今年度も残りわずかですが、引き続き主体的な活動を通して、学びの充実を図ります。